

NPO 純正律音楽研究会会報 ～2018年2月発行～

# ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 Tel:03-5317-0291  
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 平成30年2月23日  
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会  
編集 相坂政夫

## No.55



まだまだ寒さが厳しいですが、会員の皆様如何お過ごしでしょうか。  
昨年は3月11日新宿、角筈区民ホールでのコンサートを皮切りに、9月16日山崎製パン、「飯島藤十郎社主記念 LLC ホール」、11月11日近江八幡市、「文芸セミナーヨ」、11月25日「オペラシティ リサイタルホール」と4会場で開催させていただきました。

今年最初のコンサートは1月27日ラリールで開催、多くの方々にご来場いただき誠にありがとうございました。次回開催は、5月12日土曜日午後2時開演新宿、角筈区民ホールになります。皆様お誘い合わせのうえご来場いただければ幸いです。

なお、9月15日土曜日は、千葉県市川市の山崎製パン、クリエーションセンター内「飯島藤十郎社主記念 LLC ホール」にて開催、午後2時開演になります。

玉木宏樹が亡くなって、今年1月8日で丸6年になります。これからも玉木の意味を継ぎ、純正律音楽の普及に邁進していきたいと思っております。

今後とも純正律音楽研究会をよろしくお願い申し上げます。

## 伊勢神宮初参り

洗足音楽大学教授・ヴァイオリニスト  
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表  
水野佐知香

会員の皆さま新しい年が過ぎ、もうすぐ春がそこにきているように感じる毎日です。お変わりありませんか？

今は中国の旧正月、日本では1月1日がお正月ですが、暦の上では2月3日の節分を境に新しい年が始まるという考え方もあり、新しい年の迎え方もそれぞれあるようです。

私は毎年春、伊勢神宮に参拝をすることにしています、今回は愛知県有松でコンサート名古屋、マスタークラスが終わり、伊勢神宮内宮から歩いて、15分の「いにしへの宿 伊久」に宿泊しました。

有松では有松絞りの蔵で2回の本番でした。

有松は江戸時代から東海道五十三次の宿場町として栄えた街で、今も昔のままの街並みが残っています。今回演奏させていただいた竹田邸は、有松絞りの400年の歴史のあるお宅で、江戸時代、明治時代に建てられた由緒ある建物で、玄関には昔のままの泥棒よけのもう一つのしっかりした戸が天井に吊り下がり、その屋根裏にはまだ、当時の檜がそのままあるそうです。

蔵を改造した建物でしたが、とても気持ちよく演奏させていただきました。

あくる日は、名古屋の日本弦楽指導者協会主催のマスタークラスでしたが、この試みが面白いのです。

「ヴァイオリンの弾き方お悩み相談受け付けます」

ではありませんが、6人の小学一年生から高校生までのモデルさんに対して、悩んでいること、「ギーギー音がする」「力が入ってしまう」「右手が硬い」等、その場でアドバイスしながらのマスタークラス！問い合わせも多く、お客様も小さい会場でしたが満員、音がどんどん変わっていくことがとても面白く、小さいお子さんたちからも質問され、とても楽しい時間をお客様たちと過ごしました。

さて、1年ぶりのお伊勢さん参拝、

日の出を拝みたく、朝早く行きましたが、なかなかお顔が出てきません！お参りが終わりましたら後ろから、感動でした。

内宮の正宮に続き荒祭宮にも初めてお参り！ここのお宮は、すばらしいパワーがあり、近年人気になっているそうです。

凜として神々しいこの空気感、忘れずに、日々を過ごしたいと！そして、最近不思議に思うことがあります。人間の肉体は、必ず終わりがあるのに、世の中はずっと続いています。伊勢神宮は2000年の歴史があり御神木は、世の中の移り変わりを全てみています。

『日本書紀』によると、そのとき天照大御神は「この神風の伊勢の国は、遠く常世から波が幾重にもよせては帰る国である。都から離れた傍国ではあるが、

美しい国である。この国にしようと思う」と言われ、倭姫命は大御神の教えのままに五十鈴川の川上に宮をお建てしました。

伊勢神宮を作られた、第11代垂仁(すいにん)天皇の皇女倭姫命(やまとひめのみこと)は、実際に実在された方で、彼女が祀られている齋宮だけにお参りに来る方もいるそうです。

すばらしいロマンですよ！

輪廻転生と言いますが、きっと神様たちも人間となり、いろいろ生まれかわっているのでは?!と、想像しています。

貴方も本当は神様?!



### ムッシュ黒木の純正律講座 第54時限目

#### 平均律普及の思想的背景について(43)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

このところ数回に渡って、キリスト教の<神>が分からなければ、西洋思想はもとより近代民主主義は理解できないのではないか?という議論を続けている。音楽とは関係ないのではないか?という人がいるかもしれないが、実のところ、西洋の音楽を理解するにはこれと同種の議論が成り立つ。純正律による美しい響きは、単に美しいか美しくないかという議論のみならず、<神>を中心としたキリスト教文化に根ざしているのである。

昨年末に放映されたお笑いの番組である芸人がブラックフェイスをしたという事件が話題になった。今までも度々問題視されたことのある芸能人によるブラックフェイスが繰り返されてしまったということになる。

まず、差別は民主主義社会にとって許されてはいけない行為だということを言うておく。もちろん、現実にはどんなに努力したところで差別を根絶することは出来ないだろう。しかしだからと言って、差別があっても良いということにならない。

顔をわざと黒く塗るブラックフェイスは決して黒人を真似したものではない。そうではなく、黒人の真似をして顔を黒く塗った白人を真似していると見做される。かつて、アメリカに『ミンストレル・ショー』というテレビ番組があった。ブラックフェイスはこの番組で行われた。以降、アメリカではブラックフェイスは黒人差別のコードとして機能している。よって、このような行為は決して許されるものではないということになる。

文化が違うんだから、という言い訳は通用しない。なぜなら我が国とアメリカは政府のレベルでも民間のレベルでも交流があり、少なくない日本人が彼の地に住み、また少なくないアメリカ人が我が国に住んでいる。また、当然、日本に帰化した人間や両国のハーフの人間も増えつつある。そういった人たちに配慮をすれば、アメリカのコードを受け入れるのは必要なことであると言えるだろう。

そもそも彼らのネタはブラックフェイスにしなくても十分成り立つものだ。であるならば、友好国の市民やその文化を分かち持っている人たちに配慮するのがスマートな対応ではないだろうか？ また、知らずにやってしまったなら、素直に謝罪して二度と繰り返さないことを約束すれば良いだけの話だ。御託を述べ立ててごまかそうとする必要は一切ない。

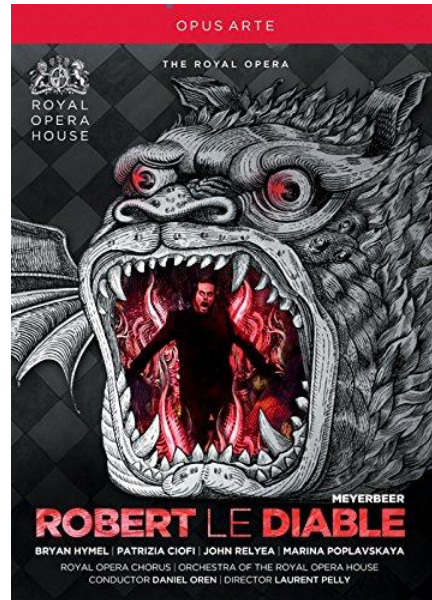
アメリカ出身の人たちは日本の社会ではまだまだ少数派だから配慮しなくても良い、という考えも通用しない。なぜなら民主主義社会では少数派の権利にも配慮しなければならないからである。民主主義社会は少数派の人権を認めることによって発展してきたのである。

例えば、フランスのプロテスタントとユダヤ人は、カトリックの教会で洗礼を受けないが故に、教会が管理していた籍に入っておらず、カトリック教徒が享受していた権利から疎外されていた。そこで、宗教に関係なくライシテ（＝政教分離）の旗の下にすべての市民に同じ権利を与えるべきだ、という主張を掲げて活動を展開し、その結果フランスの人権を拡大していったのである。例えば、女性の参政権や堕胎の権利獲得などが挙げられる。

フランスの堕胎権利に関する運動と言えば、やはり最近アメリカから発したセクハラへの抗議キャンペーンに対して、フランスの新聞に疑問の念を表明したカトリーヌ・ドヌーヴも運動の一翼を担っていたことを指摘しておきたい。

このように、民主主義と宗教は深い関係にある。宗教勢力が政治から排除されたライシテの時代においても、重要な文化的背景になっているのである。ライシテの名の下に宗教の影響は見えにくくなっているが、西洋文明と付き合う以上、その理解は不可欠だと言えるだろう。

CD レビュー 純正茶寮  
『悪魔のロベール』  
純正律音楽研究会理事 黒木朋興



ハイメル (出演), チョーフィ (出演)  
レーベル: OPUS ARTE  
ASIN: B00NPZ57QO  
JAN : 4945604911061

19世紀初頭のフランスで花開いたグランド・オペラの代表作、マイヤベーアの『悪魔のロベール』のDVDである。

奇想天外な脚本と壮麗なオーケストレーションといった特徴に溢れるこの作品は、現代においてもその魅力を決して失っていないと言える。ところが、世界のオペラ劇場の定番のレパートリーとなっているヴァーグナーの楽劇のような作品に対し、『悪魔のロベール』は19世紀以来長い間上演されて来なかった。

ではなぜこの作品が放っておかれたかというのと、上述のヴァーグナーのせいなのだ。マイヤベーアのようなユダヤ人が神聖なる音楽の世界を商業主義で汚してしまったとヴァーグナーが悪口を言いつつだったので、マイヤベーアはすっかり評判を落としてしまったのである。正確に言えば、これはヴァーグナーの逆恨みと言って良い。マイヤベーアを頼りにパリを訪れたヴァーグナーではあるが、マイヤベーアにつれなくされたことを根に持った、というわけなのだ。

実際、その頃マイヤベーアは押しも押されもしない大作曲家だったのに対し、ヴァーグナーはまだ駆け出しの作曲家に過ぎなかったのである。

このように、不幸な運命を歩んで来た『悪魔のロベール』であるが、この作品のストーリーは極めて面白い。まず、ゲーテのメフィストテレスのように人間の肉体を持って現世に現れるベルトラムという悪魔が登場する。そしてこのベルトラムの息子がこの作品の主人公のロベールである。悪魔文学を盛んに産出するプロテスタントに対して、トリエント公会議以降悪魔表象を控えていたカトリックの土壌で、まさにプロテスタントにおける悪魔文学の代表作と言えるゲーテの『ファウスト』の直系とも言うべき特徴をこの作品は兼ね備えているのだ。更に、この悪魔ベルトラムが人間の女性と交わり子供を宿すという話は、プロテスタントの悪魔文学においても表れたことのない斬新な表現であったのだ。

本来悪魔は天使であり、霊的な存在であり肉体という物質を身に纏わない。対して、『悪魔ロベール』においては、その悪魔が受肉するところか人間の女と交わり子供まで作るのである。

このように突飛な作品が長らく上演されなかったのは本当に残念だが、21世紀において再演され、こうやってDVDで鑑賞できるのは極めて愉快的ことではある。

## 作曲家の性格あれこれ

玉木宏樹遺作

### (1) 作曲家の性格論

みなさんはクラシック系の有名な作曲家がどんな性格をしていたか、考えたことがあるでしょうか。頑固で怒りっぽくて女中によく卵を投げつけたベートーヴェン、なんて話は聞いたことがあるでしょう。女性に振られてばかりですが、そんな日常生活の破綻ぶりは、すべて崇高な創造へのバネだった、という、なんだかいい風にいられていますが、実はすごくイヤ味な性格で、マネージャー役だったシントラー以外に深くつきあった人間はいません。彼は短気で怒りっぽいだけではなく、金銭的にもとてもうるさい性格で、作曲のメモ中にしょっちゅう、コンサートの収支計算ばかりした記録が残っていますが、その計算は間違いだらけで、実は黒字だったのを赤字と思いこんで回りと大ゲンカすることは日常的だったそうです。しかし耳が聴こえない音楽家なんて今までいなかったので、それも致し方なかったことかも知れません。しかし、そんな耳のきこえなかった彼はなぜ有名になったのでしょうか。それは若い時の英雄的な存在(今ならさしずめハードロックの大スター)ぶりと聴覚異常という地獄的責め苦とのすごい落差に人々が同情したからだと思われます。今でこそ人類愛の象徴として有名な「第九」も全く評判が悪く、ワグナーによって復活されるまではベートーヴェンの最大の失敗



作といわれていました。

ベートーヴェンの素行はいろんな人が述べていますから有名ですが、それ以外の作曲家はどうでしょう。映画「アマデウス」でスカトロ趣味をあばかれたモーツァルトですが、それ以前は天心爛漫で無邪気な神童という扱いが主流でした。その他、バッハに到っては、とても敬虔なクリスチャンの人格者とのイメージが今でも充満しています。

私も作曲家のはしくれですし、他の作曲家もたくさん知っています。その経験から言わせてもらおうと、みんなから尊敬される人格者の作曲家なんて、会ったこともないし、これからもないでしょう。だいたい作曲家というものは恐ろしく自信過剰で高慢チキな存在です。それこそバッハ以前を含め無数の作曲家と作品がありながら、新しい曲を創るなんて、ドンキホーテ以外の何者でもありません。クラシックの作曲家の有名所でたいへんみんなから愛され尊敬されたのはハイドンくらいでしょう。悪妻を持った男は成功するといわれていますが、その典型かも知れません。

作曲家になる性格とか、なった性格に共通するもの、それはあくなき自己主張の私の強さだけであり、暗い、明るい、夢想的、現実的のどれか一方に偏ることはありません。楽天的で社交的で美食家のロッキーもいれば人の前に立つのが大の苦手で、いつも指揮台の上で卒倒しそうになるほどヒポコンドリアのチャイコフスキーと、それはそれは千差万別です。天下無類のオシャレだったラヴェルもいれば、ビールとステーキの汁でいつも服がテカテカしていたブルックナーと、これも正反対です。おそらくセックス依存症だったと思われるリストもいれば、チャイコフスキーを始めとしたホモも沢山いるのです。

私は精神医でも心理学者でもありませんが、今まで得た情報を整理して有名作曲家の面白い側面を書いてみましょう。

## (2) 辛気くさいバッハ(1685～1750)

先ほど書きましたが、大いに誤解を招く「音楽の父」という尊称を受け、俗世の名誉とは無縁に敬虔な信仰生活を送ったと伝えられているバッハですから、あまり素行の悪さを上げつらっている本には会えません。しかしいろんな情報を整理すると、その人物像は、とても頑固で短気で怒りっぽく、回りと衝突ばかりくり返していますが、こういうことだってバッハ礼賛者からすれば「自分の意志を貫く信念の人」になってしまうので、私はついて行きません。

バッハは才能あるオルガン名手でしたから若くして宮廷つき教会オルガニストになりますが、即興演奏が長く、不協和音もよく出したので評判がよくなく、上司から「長すぎる」と言われたとき、「これでどうですか」と言って超短く弾き終わったというのですから、すこぶる天の邪鬼。ある時休暇をもらってブクステフーデという当時の超大家のオルガン演奏を遠くまで徒歩で聴きに行き、感激のあまり、長逗留し、休暇をはるかにオーバーして、投獄されます。またオーケストラの指導も任されていましたが、いつも下手で頭に来ていたファゴット吹きが町で会うと女連れで歩いており、それを見

たバッハがイチャモンをつけ、抜刀騒ぎを起こしています。

バッハに女性問題なんて、あり得ないと言う人たちに一撃。バッハはあろうことか、教会のオルガン席に女性を座らせ、歌をうたわせたという話があり、教会に許可もなく女性をつれ込んだということで激しい叱責を受けています。この女性が最初の奥さんになった、マリア・バルバラなんですが、私の下司のカングリとしては、隣に座らせた以上のことがあったんだろうと思います。実は昔の芸大の古い校舎の中で、ネンゴロになった男女が見回りの人に見つかり、大問題となりました。しかしその男性はとても才能豊かな、将来性溢れる青年で、教授会はその男性を呼び、「君らは結婚するんだろうな、そうだろう」と言って結婚させた話があったそうです。この話ってバッハの場合と似ていると思いませんか。こんな話を書くとバッハって、なんだかヤンチャな朝青龍と似ていると思いませんか。

バッハはまた、お金に関してもたいへんな倹約家でした。敬虔なクリスチャンにしては、ある年「今年はなんだか死ぬ人が少なく、葬式が少なく、収入が減った」などと手紙を書き残しています。出世欲も強かったのですが人間関係で悉く失敗し、ライプチヒ市の音楽カントールが死んだとき、大チャンスとばかり働きかけましたが、ライプチヒ市側は、最初、当時バッハなど齒牙にもかけない有名人、テレマンと交渉しましたが、ギャラが合わず決裂、次の候補者にも断られて困っていたときに、バッハはライプチヒの市議員の何人かに賄賂を贈り、なんとかカントールになれた、なんて話もあります。バッハも、結構、ドロドロした人生を送ったんだと思います。

それに比べて同い年のヘンデルは超外交的な性格で、派手な生活を送り、作曲家というよりは、プロデューサーとして大成功しました。

### (3) ワーカホリックのチェルニー(1791~1857)

ピアノを習った方なら、必ずチェルニーの 30 番、40 番は御存知だと思います。この 30 番の意味は、この本は 30 曲の練習曲があるという意味です。しかし、それをまとめて、作品(op)××として出版されています。よく言われる作品番号はある程度のメドにはなりますが、必ずしも 1 曲ごとに番号が付いているわけではありません。ショパンの「24 の前奏曲」も 1 曲ずつに番号が付いているわけではなく、まとめて作品 28 となっているのです。それから作品番号というのはベートーヴェンの最後が op138、を始めとして、殆どの作曲家の作品番号は 150 を越えるのは珍しく、長生きしたサンサーンスが 170、もっと長生きしたライネッケが 290 です。でもこういう人たちは純音楽系ですから、交響曲やピアノピースまでに亘っていますが、そういう純音楽じゃないヨハン・シュトラウスのダンス音楽の場合、op479 にまで到達しています。

作品番号(op)というのは音楽出版社の発刊承認番号ですから、出版社経由で公表されたものにしか番号はつきません。そういう意味ではチェルニーの作品番号は 900 近くになっていて、これはもう異常以外の何物でもないし、ひとつの作品番号で、30 曲や 40 曲という曲がまとめられているのですから、作品番号のない曲も含め、チェルニーの本当の作品数は、全く想像を絶する



わけです。

こんなチェルニーは実はベートーヴェンの弟子であり、自分の弟子としてはリストを筆頭にたくさんの有名人がいます。彼はベートーヴェンの支持を受け、「皇帝コンチェルト」の初演もやっています。もちろん彼も子供の時は評判になった神童でしたが、段々人前での演奏から遠ざかり、教師と作曲に没頭しました。ここから彼のワーカホリックが始まります。当時初演されて評判になった他人のオペラの序曲や有名なアリアをすぐにピアノ用、またはヴァイオリンやフルート用に編曲します。今風に言うと「カバー」なんです。が、当時としては流行のオペラの楽譜上のシングル盤だったんでしょう。

チェルニーの浮いた話は聞いたことがありません。彼は毎日 10 人くらいのレッスンを終えたあと、作曲に没頭しました。その仕事ぶりは、丸テーブルに置いた何枚もの五線紙に次々と書きこみ、アイデアが尽きると過去のアイデア帳から引用したそうです。私自身もかなりの中毒状態ですが、はっきり言ってチェルニーは「ワーカホリック」そのものです。

#### (4) 忘れっぽいシューベルト(1797～1828)

あの可憐で美しいメロディの数々を残したシューベルトですが、曲調と性格はまるで正反対、葉巻と酒におぼれ、不潔だったようです。身長 156 cm で小肥り、周りからは「ビヤ樽」と呼ばれていました。繊細というか、たいへんな小心者で、人前で何かをするのはとても苦手だったようですから、恋人の噂はありませんが、そのくせ売春宿の常連で、そこで伝染した梅毒がもとで 31 で亡くなりました。死ぬ前は髪の毛は抜け落ちていたそうです。

チェルニーほどではありませんが、やはりワーカホリック的に次々に作品を書いています。とにかく書くスピードは物凄く早かったようです。ベートーヴェンのように推敲はしませんから、次から次へと書きまくっています。彼はけっこうずぼらな所があったようで、約束は平気で破ったそうです。遊ぶのは仲間内だけなのに、その仲間との約束も破っています。

シューベルトの「未完成」交響曲の謎は映画にもなりましたが、未完成になった理由と恋物語の因縁なんて全く何の関係のないことが原因だったようです。以前はある協会の会員にしてもらったことへの謝礼として書かれたように言われていましたが、最近のグローブ音楽事典によると、それも違うようです。シューベルトの仲間に、アンゼルス・ヒュッテンブレンナーというお金持ちの作曲家がいましたが、その人から借金し、その返済がわりに、1.2 楽章を送ったのですが、ヒュッテンブレンナーは、そのうち、3.4 楽章もくるだろうと思い、引き出しに抛りこみ、そのままになったようなのです。忘れっぽいシューベルトのことですから、一気に完成させず、もう一度途中から続きを書くのはきっと億劫になり、そのまま忘れてしまったというのが真相のようです。夢を破られた方はお赦し下さい。

#### (5) セックス依存症？ のリスト(1811～1886)

自分のピアノ演奏によって多くの女性を失神させたリストですが、どれだけ女性にもてたか、という本はたくさんあります。しかし、私はひよっとし

たらリストはタイガー・ウッズばりのセックス依存症だったのではないかと  
思えてなりません、そういう研究書はないのでしょうかね。

#### (6) 強迫神経症のブルックナー(1824～1896)

ビールとステーキが大好きだったブルックナーですが、常に肉汁をこぼす  
ので服はいつもテカテカしていたとのこと。何でも数を数えないと気が  
済まないという強迫神経症だったと言われていますが、数えることにかけて  
は私も人後に落ちません。歩いている時はいつも自分の持っているクラシッ  
ク系の CD(約 3000 枚くらい)の数を思い出して記憶力をチェックしていま  
す。また私のブログには、好きな曲を聴いた回数を書きこんだりしてしま  
すが、別に自分のことを強迫神経症だと思ったことはありません。

しかしブルックナーは鬱病気質が激しく、自殺願望も持ち、死に対する(死  
体に対する?)興味を強く持っていたようです。シューベルトやベートーヴ  
ェンの墓が移動の際、掘り起こすことを知ったブルックナーはその場で待ち  
わびていました。何を持っていたのか?ブルックナーは掘り起こされた頭  
蓋骨にどうしても触りたかったそうです。強い頭痛の発作に悩まされ、強迫  
神経症の治療も受けています。

弟子すじのマーラーと親しかったのは有名ですが、一人、意外な弟子がい  
ます。それは「愛の喜び」等の作品で有名なクライスラーです。クライスラ  
ー自伝によると、音楽院の生徒だったとき、学友と企んで、あるイタズラを  
したそうです。それは強力なワグナーファンだったブルックナーに対し、あ  
る犬にワグナーの曲を聴かせてはいじめ、ブルックナーの曲を聴いたら餌を  
やるという繰り返しで犬は到頭、ワグナー大嫌いになりました。そしてある  
日、ブルックナーの前でその犬がいかにもワグナーが嫌いでブルックナーが好  
きか、という実験をした、というのですが、クライスラーの自伝ではドリー  
ブの「コッペリアのワルツ」は自分の作曲だなんてウソを平気で書いていま  
すから信用はできませんね。

#### (7) 人の悪口を言うのが好きだったブラームス(1833～1897)

ブラームスは残された写真から想像すれば、いかにも威厳のある人格者と  
いう雰囲気があります。そして大概の本を読んでも、とてもいい人だっ  
た、ということが強調され、クララとの関係までプラトニックと決めつけら  
れています。しかし、実像のブラームスは自信家で自己主張の激しい人物で、  
人の悪口を言うのが好きな、イヤ味な人だったそうです。また、あの地味っ  
ぽい作風からすると金銭とは無縁の生活を送ったように思えることではし  
ょうが、彼はあの通俗的なハンガリー舞曲集で大儲けしています。この曲集は、  
あるヴァイオリニストと演奏旅行に行ったときに採譜した曲と言われてい  
ますが、そのヴァイオリニストは自分も関係しているのにと文句をつけた所、  
ブラームスは裁判を起こして、そのヴァイオリニストの言い分を叩きのめし  
ました。どちらが正しいのかは今では全く分かりませんけど。

人の悪口に関しては過去に面白いテレビ番組がありました。確か、大橋巨  
泉氏の「クイズダービー」じゃなかったのかと思いますが、問題はブラーム

スに関することでした。決して人のことをけなさないブラームス(なんという！)のところに新人がスコアを持ってきて批評をもらおうとしたところ、箸にも棒にもかからないひどい作品だったので、ブラームスは何とかいい所を探してほめようとした結果、「君の五線紙、とてもいいねえ。どこで買ったの？」と、言った、というのですが、人格者だから相手を傷つけないように、そう言った、などというのはとんでもない話でしょう。曲について何も言わず、五線紙をほめるなんていうのは最大の侮辱じゃないですか。またブラームスの元へは、若い作曲家がよく訪れていましたが、歌曲の作曲家、ヴォルフと、マーラーの親友だったロット、この二人はブラームスの家には入れてもらえず、後に二人とも発狂しています。何とも罪つくりですね。

シューマンが発狂する以前にブラームスが訪れてきて、シューマンはいち早くその才能を見抜き、絶賛の紹介記事を書きましたが、その時のブラームスのあまりにも垢抜けない野暮ったさに、クララとシューマンはかげで大笑いしたということですが、すぐにクララとブラームスは愛しあうようになります。クララの最後の子はブラームスの子ではないかという説までありますが、真相は謎のままです。

#### (8) モーツァルトを上回る神童だった？ サンサーンス(1835～1921)

神童といえばモーツァルトの代名詞のように言われますが、モーツァルトの再来と言われた人、ひょっとしたら、モーツァルトを上回る神童も何人かいたようです。その一人がこのカミーユ・サンサーンスです。2歳半でピアノを習い始め、5歳でモーツァルトの「ドン・ジョヴァンニ」のアナリーゼ(曲の解析)をしたくらいのとんでもない天才で、3歳以前に読み書きができ、ラテン語も得意で後には天文学や考古学、占星術に凝り、詩や小説も書いた超多才な人で、長生きしたおかげで、作曲も夥しい数を残しています。しかし日本では「動物の謝肉祭」の中のチェロの名曲「白鳥」ばかりが有名で、他の曲は軽んじられている傾向があります。ひとつには日本のクラシック音楽教育がドイツ偏重、しかも交響曲を重視するあまり、3曲しか交響曲を書かなかったことが原因だと思われま

す。サンサーンスはやはり、神経質で怒りっぽくむら気という、他の作曲家と同じような所がありますが、ここではそれを追求するのではなく、交響曲の初演にまつわるウラ話を紹介しましょう。サンサーンスの時代、華麗なオペラやバレエは、フランス、イタリアが主流で地味っぽい器楽曲、特に交響曲はドイツのものという棲み分けがはっきりしていて、フランスでは交響曲を書くということはウィーン古典派を学ぶための勉強でしかなかったのです。そんな楽壇に交響曲(No.1はなんと op2)でデビューを計りましたが、フランス人の新人の交響曲なんて、全く相手にされないことは目に見えて分かっていたので、サンサーンスのよき理解者だった指揮者のセゲルスは、自分の所へ送られてきた無名のドイツ人の交響曲として初演して成功し、後にサンサーンスというフランス人の新人だと発表、グノーやベルリオーズからも絶賛されたのです。こうして交響曲の作曲家としてデビューしたのに結局、生涯に3曲しか書かず、今では、オルガン付きの No.3 しか演奏されません。

サンサーンスには実は、世界で一番最初にやった仕事がありました。それは映画音楽でした。いかにも好奇心旺盛な彼らしい業績でしょう。

#### (9) 放浪癖の作曲家、アルベニス(1860～1909)

4歳でピアニストのデビューを果たしたアルベニスはやはり神童のひとりでした。そしてモーツァルトと同じように、スペインはおろか、パリにまでコンサート活動をしています。しかしモーツァルトと全く違うのは、ステージパパの存在を嫌悪し、何度も家出をしていることですが、ピアノは弾き続けているので、音楽は好きだったんでしょう。9歳の時の家出はすさまじいもので、行きあたりばつりに汽車に乗り、あちこちでコンサートをやって稼いだお金を山賊に巻き上げられ、仕方なくうちに帰っています。そして12歳のとき、とんでもない放浪に出ます。アンダルシア地方からカディスへ出て、南米のプエルト・リコ行きの客船に忍びこみます。航海中はピアノを弾いて生活していたようです。そして、プエルト・リコから南米にわたり、アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジル、キューバと放浪します。しかし、南米にいるらしいとさとした父親に居場所を突きとめられ、ハバナで再会しますが、なぜか父親も賛成して、今度はアメリカにわたり、また放浪生活に戻ります。そして最後の旅はサンフランシスコで終わります。

17歳でスペイン政府から奨学金をもらい、ブリュッセル音楽院に入学して、1等賞をとり、20歳の時リストに会って教えを受けます。そしてこの後はとても落ち着いた生活を送り、すばらしいピアノ曲をたくさん書き残しました。こんな破天荒な青年時代を送った作曲家はアルベニス以外にはない、特筆すべき人物でした。

#### (10) おしゃれすぎるラヴェル(1875～1937)

「ボレロ」で有名なラヴェルは、150 cmくらいの小柄だったのですが、超おしゃれでした。そのサマを見事に描写している千歳八郎氏の「素顔の作曲家たち」のラヴェルの項を引用させてもらいましょう。

女性ヴァイオリニストで、ラヴェルの終生の友人として、つねに彼の影の形に添うがごとき存在だったジュルダン＝モランジュが、その「ラヴェルと私たち」(音楽之友社)のなかで、彼のダンディぶりをいろいろと披露しているが、30歳代のラヴェルは「茶色の上衣、格子縞のズボン、堅く張らせたカラーに細い蝶ネクタイ」といういでたちを見せていたという。またある時は、短いベージュ色のコートを着て、籐のステッキを持ち、手首で折返しのついた手袋をはめていて、まったく社交界の紳士そのものだったということである。アメリカ旅行をした時、わずか二ヶ月だというのに、花嫁の輿入れほどの大荷物をたずさえていったというが、その中味といえ、ワイシャツを50着、バジヤマを20組、それに色とりどりのワイシャツに合わせたズボン吊り、もちろん靴下も靴もあれば、ハンカチもあるといったしだい、

お洒落のラヴェルならではの旅支度だったというわけである。

ある時のこと、発車まぎわに列車に乗り込んできたラヴェルの、遅刻した言訳は、家を出ようと思ったら、上着を変えたのに、それに合わせて靴下をはきかえるのを忘れていたものだからというものであった。きょうは、この洋服を着ようとするから、それに合ったワイシャツを着て、ネクタイを選び、ハンカチも合わせて、靴下から靴へと気をまわすというのが、お洒落の秘訣といえるから、ラヴェルが、そのために列車に乗り遅れそうになったというのもよくわかることになる。それが一つでもチグハグだと、なんとなく落着かないのである。

こんなおしゃれのラヴェルも自動車事故が遠因で脳の病気を煩い死んでしまいました。勿体ない事故でした。

## イスラームについて(2)

純正律音楽研究会 正会員  
弁護士 齋藤昌男

### 目次

1. 緒論
2. イスラームを知るための基本用語
3. 世界三大宗教の一つ
4. イスラームとは何か
5. イスラームの信仰
6. 二大宗派・スンニー派とシーア派
7. スーフイズムについて
8. ジハードについて
  - (1) ジハードの本来の意味
    - (i) 定義
    - (ii) ジハードであれば人を殺しても良いのか
  - (2) ジハードを名乗るテロをどう考えるべきか
  - (3) ジハード主義の誕生
    - (i) ソ連軍のアフガニスタン侵攻
    - (ii) アルカイダの誕生
    - (iii) タリバンの誕生
    - (iv) 湾岸戦争と米軍のサウジアラビア駐留
    - (v) I S (イスラーム国) の誕生
9. ムスリムの生活の実態はどうか  
(ここまで前回、以下は今回)

10. イスラーム世界には宗教会議なるものが存在しない
11. イスラームに信教の自由が存在するか
12. 何故イスラーム商人たちは「資本家」になれなかったか
13. 日本人はなぜ勤勉か（日本人はなぜ資本主義を成功させたか）
14. イスラーム諸国の近代化は可能か
15. イスラーム法について
16. 井筒俊彦博士について

10. イスラーム世界には世界宗教会議なるものが存在しない。

イスラームには、正当と異端とを裁くキリスト教界における宗教会議の様なものはありません。これが一つの大きな特徴です。キリスト教が、ローマ帝国の国教となった後も、教義をめぐる激しい論争が繰り返され、政治指導者や神学者による合議を経て、ようやく正当教義を確定した経緯があります。その後もカトリックでは、ローマ法王を頂点として、今でも宗教会議が開かれ教義を決めています。

一方プロテスタントの方には、20世紀に入ってから（1910年にはエディンバラの世界宣教会議）、エキュメニカル運動（教会一致運動のことを言う）が先駆となり、現在、120カ国以上の正教会、聖公会、プロテスタント諸教派の340以上の教会がWorld Council of Churches（略称WCC世界教会協議会）を作っており、本部はスイスのジュネーヴ）にあります。

しかしイスラームは、身近にカトリックの体制を見ていながら、自分達の体制を決めるときに、宗教会議を持つ体制にしませんでした。これがためにイスラームにおいては、自分達が従うべき神の命令とは何かという、最も基本的な問いに対する答が一つに落ち着くことがなく、個々のムスリムが自ら信じるところに従って行動する多様性が、ある程度まで認められることになりました。これが、現代においてテロを起こす原因の一つとなり、またイスラーム世界が一つとなって、テロを防ぐことが出来ない大きな原因です。

イスラームの現世構築的な姿勢は必然的に政治への強い関心とならざるを得ないので。この為、宗教は自ら濃厚な政治性を帯びてこざるを得ません。従ってイスラーム宗教共同体の首長たるものは、宗教的最高指導者であると同時に政治的最高指導者でもあります。イスラームに関して良く言われる政教一致とはこのことであり。政教一致とはこの場合、聖俗不分、すなわち人間の生活における聖なる領域と俗なる領域との区別を立てません。この点がキリスト教と根本的に違っています。イスラームにはカトリック教会に類するような教会組織はありません。モスクの名で知られる聖堂はありますが、モスクは集団的礼拝の場所であって、教会ではありません。教会制度がないから、勿論、法王（ポープ）もいません。司祭も牧師もいません。聖職者、あるいは僧侶というような特別な階級は存在しません。

「アッラー」を語るテロリストに対してイスラーム諸国は連合体で何かしたくても出来ないのです。また、その様な動きすらありません。正に現代の悲劇です。テロリスト達は、コーランを都合良く解釈して、悪魔の書にしているのでしょうか。

一方、キリストは「我が王国はこの世のものではない」と言い、「カイザルのものはカイザルへ、神のものは神へ」と言っており、明らかに存在の聖なる領域と俗なる領域とが区別されています。

#### 11. イスラームに信教の自由が存在するか

(1) 2016（平成28）年10月21日の朝日新聞の朝刊で、東京大学先端科学技術研究センターの準教授、池内恵先生は、次の様に書いておられます。

「西欧が自由と平等を掲げる以上、イスラム教にも様々な権利を与えるべきだと考える人は多いでしょう。では、そのイスラム教は西欧のような自由を認めているのでしょうか。イスラム社会で他の宗教を信じるのが許されますか。

（略）

イスラム教の平等や不自由な面に、イスラム思想家は言及しようとしません。

（略）

この問題は、『自由な社会は、自由を否定する思想も受け入れてなお維持できるのか』という普遍的な問いかけを含んでいます。ただ、欧州のリベラル派はそのことに気づいていない。自らが奉じる『自由』という言葉が普遍的であるという観念に惑わされ、西欧思想と同じ意味でイスラム教も自由で平等な思想だと勘違いしているからです。」

(2) この事を実証するために、筆者の手元には、The Salvation Army Year Book 2017 がありますので、これを見て見ましょう。この Year Book によると、現在22カ国あるアラブ連盟加盟国の内でキリスト教の Salvation Army（救世軍）を受け入れているところは、1ヶ国もありません。

アラブ連盟加盟国の22カ国と言うのは、次の国であります。

エジプト

イラク

サウジアラビア

イエメン（北イエメン、南イエメン）

ヨルダン

レバノン

シリア

リビア

スーダン

チュニジア

モロッコ

クウェート

アルジェリア

バーレーン

カタール

オマーン

アラブ首長国連邦

モーリタニア



ソマリア  
ジブチ  
コモロ  
パレスチナ

アラブ連盟加盟国ではないがイスラーム教の盛んなパキスタン、バングラディッシュ、インドネシアには、救世軍は進出しています。これは、イギリスの植民地、オランダの植民地であった頃の影響であると思われます。

12. 何故イスラム商人たちは「資本家」になれなかったのか。

(1) イスラムが近代化できないのは、何故か。なぜヨーロッパだけが近代資本主義に到達できたのか。この問題は、マックス・ヴェーバーの論文「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」で、精緻に取り上げられていることは、余りにも有名であります。同書の訳者である大塚久雄博士は、岩波文庫の訳書の訳者解説で、次の様に言っている。少し長いが本質をついているので以下引用しよう。

「通常の考え方では、まず商業が発達し、そして、その商業やその担い手である商人たちを内面から動かしている営利精神、営利原理といったものが社会の到るところへしだいに浸透していくと、その結果として近代の資本主義が生まれてくることになるのだ、とされている。しかし、歴史上の事実を決してそうはなっていない、と彼は言っているのです。

なぜか。少しよく読んで見れば、すぐに分かります。さきほどの引用文でヴェーバーが『オリエントや古典古代』と言っているばあい、オリエントの方は意味が広くて中国やインドも入っていますし、古典古代はもちろんギリシャ、ローマです。『とは違って』というのは、中国でもインドでも古典古代でも、本質的には商業に対する倫理的規制などはなく、むしろ、自由だった。しかし、歴史上そこからは近代の資本主義は結局生まれてはこなかった。そういうことです。ところが、そうした点で、世界史の上で例外をなしているのは中世以降のキリスト教的ヨーロッパです。中世のカトリック教会は、周知のように、暴利の取り締まりとか利子禁止とか、そうした商業上の倫理的規制をやりました。さらに宗教改革後のイギリス、ネーデルランド、フランス、アメリカ合衆国などの国々の禁欲的プロテスタンティズムにいたっては、旧来の商人たちの暴利は倫理的に最大の悪事であるかのように考え、きびしく取り締まっている。そういう宗教が歴史上公然と支配したのがニューイングランド、スコットランド。イングランドやオランダでも一時はそれが支配した。フランスでも一時はユグノー（カルヴィニスト）がかなりの力を振るった。ところが、まさしくそういうところで近代の資本主義は生まれてきている、というわけなのです。」

(2) 近代以前の世界においては、イスラムのほうが、ヨーロッパよりもずっと豊かであって、所謂アラブの大商人が数多くいた。資本主義がおこるヨーロッパにも大富豪は何人もいた。イタリアのメディチ家、ドイツのフッカー家がそれである。大塚久雄博士は、こうした近代以前の富のことを「前期的資本」と呼んだ。

(3) しかし、前期的資本はいくらあっても近代資本主義を生み出さない。前期

的資本から近代資本主義への移行は、何かのきっかけ、触媒によって資本主義が生まれ出る。端的に言えば、マックス・ヴェーバーの説明によればプロテスタンティズムこそ近代資本主義を生み出す触媒となった。とくに聖書に厳正なカルヴァン派の存在は大きかったという。

- (4) 小室直樹博士著 日本人のためのイスラム原論 (集英社発行) より引用すると次の通りである (401ページ)。

「ウェーバーは、さまざまな例を挙げつつ、カルヴァン派が『資本主義の先兵』になったありさまをつぶさに示している。そして、矛盾のごとく見えながら矛盾ではないことを証明した。

資本主義はプロテスタンティズムを媒介 (触媒) として誕生した。

キリスト教が資本主義に徹底的に反対した宗教であったからこそ、ヨーロッパでは資本主義が生まれることになった。前期的資本は宗教改革を触媒にすることで、近代資本主義における資本 (産業資本) へと変貌したのであった。

ここが理解の急所である。ポイントである。

このことさえ理解できれば、イスラムになぜ資本主義が生まれなかったのかも、よく分かってくるのである。」

- (5) 宗教改革の指導者たち、特にカルヴァンは、キリスト教の教義をイエスやパウロの時代の姿に戻すことを目的としていました。カルヴァンは予定説を説き、神の万能なること、絶対なることを強調してやまない。かくして、宗教改革後のクリスチャンの間には「行動的禁欲によって天職を遂行すれば、救済される」と言う思想が生まれ、平たく言えば、「労働こそが救済である」との思想が確立したのです。この「労働こそが救済である」と言う思想は、「資本主義の精神」の母胎となったのであると、マックス・ヴェーバーは説いています。

### 13. 日本人はなぜ勤勉か (日本人はなぜ資本主義を成功させたか)

- (1) マックス・ヴェーバーは「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」で宗教改革後に広がったプロテスタントのキリスト教がもっていた儉約や勤勉の教えが、近代資本主義を形成するのに大きく貢献したと書いていることは、既に述べたところであります。それならば、日本人はなぜ勤勉なのか。宗教 (特にキリスト教の信仰) を持たない日本人が何故、資本主義を成功させたのか。

1979年 (昭和54年)、山本七平氏は、「カップ・ビジネス」から「日本資本主義の精神」を刊行しました。また、その後山本七平氏は「日本人を動かす原理・その2」として「勤勉の哲学」を刊行しました。筆者が、最初に読んだとき、禅宗の鈴木正三、石門心学の石田梅岩、また布施松翁、鎌田柳泓、手島堵庵の名前が出てきましたが、何故にこれらの江戸時代の人の名前が出て来るのか、それが日本の資本主義にどの様に関係してくるのか、全く理解出来ませんでした。

- (2) 江戸時代の特徴

山本七平氏に言わせると、江戸時代は、日本の歴史の中で最も興味深い時代で、一言で言えば、これは「日本人の自前の秩序」を確立した時代であ

り、それが300年近くも継続した時代であるからであると言っております。  
(前掲「日本資本主義の精神」116ページ3行目以下) 明治時代のように  
西欧を模倣し、戦後のようにアメリカを模倣し、古代の日本のように、中国  
のみが典拠であった時代ではなく、江戸時代は自分でものを考える独創的な  
時代でありました。

### (3) 日本をつくった二人の思想家

山本七平氏は、日本をつくった二人の思想家を挙げています。鈴木正三  
と石田梅岩です。

(i) 鈴木正三は、生まれは、1579年(天正7年)、本能寺の変の3年  
前、三河(愛知県)の武士の生まれで、家康の旗本に属し、関ヶ原にも出  
陣しています。1620年(元和6年)、突然に出家し、77才でこの世を  
去るまで、禅宗の僧侶でありました。

鈴木正三は、宇宙の本質を「一仏」とし、この仏には三つの「徳用」  
があるとしています。この徳用を、彼は、「月」と内心の「仏」と「大医王」  
と表現しています。山本七平氏は、この表現は、キリスト教の三位一体と  
共通性があると言っています。「彼らが『父なる神、子なる神、精霊なる神』  
と言ったように、正三は『月なる仏』『心なる仏』『医王なる仏』と言った  
わけである。」としています(前掲書154ページ、10行目)。

(ii) 石田梅岩は、1685年(貞享2年)に、京都府の亀岡市で生まれ  
ました。徒歩による移動が原則であった時代を考えると決して辺鄙なところ  
とは言えないところです。11才のときに、石田梅岩が京都に出て奉公  
することになりました。まず数年の丁稚見習いの期間があり、丁稚には給  
料はないが、盆と暮れに衣服や履き物を与えられました。しかし、経営が  
悪化していた彼の主家は、それさえも支給出来ませんでした。4、5年た  
って両親のもとへ帰省したときも、家を出たときの服装のままであったと  
いいます。

梅岩は、その後数年、父母のもとで農作業や山仕事を手伝っていま  
しが、23才のとき再び京都へ出て、奉公することになりました。35、6  
才の頃、小栗了雲に会い、この人を師と決めました。梅岩の師と目くされ  
る了雲は、享保14年、60才で世を去りました。了雲の死んだ年に、梅  
岩は小さな私塾を開きました。梅岩45才のときであります。もっとも彼  
は、一切謝礼は受け取らず、自分がかみえたと信ずることをえ、他人に  
も伝えたいと言う情熱だけありました。山本七平氏によれば、基本的にい  
えば、梅岩の世界観は正三と同じであったと言っています。そして梅岩の  
死後、彼の弟子達により、「石門心学」として社会的に一大強化運動となっ  
てゆきました。

(4) 西欧に生まれた資本主義の場合は、最初は伝統的な共同体が経済活動を支  
えていましたが、経済が複雑になるにつれて、生産活動に向けた合理的かつ  
機能的集団に中心が移って行きました。

日本の場合は、機能集団だけでは十分に機能せず、企業内部の社会を成り  
立たせる共同体(コミュニティ)が併存していて、二重性をもった企業組織  
として、初めて十分に機能して行くと言います。故山本七平氏は、ここに日

本資本主義の特色があると言っています。

1980年代までは、日本企業では定期的な社員旅行や、運動会まで開催していました。戦後の日本では地域コミュニティが崩壊したので、コミュニティ的な要素が会社に残っているといます。また、日本人の多くは、ムラ社会出身者なので、企業内にムラ社会を持ち込んだと言います。ただ、宗教的世界観の違いでキリスト教社会の場合には、「神との契約」が、社会組織にも反映し、日本の場合には、「人間相互の約束」として把握されるからとも説明しています。

- (5) 故山本七平氏が注目したのは、江戸時代の「藩」でした。徳川幕府の支配下にあった日本において、それぞれの地域を統治していたのは、「三百諸侯」と言われる「藩主」でありました。藩においては、まさに機能集団と共同体の一致が生じていました。

そこでは「君、君たらずとも、臣、臣たらざるべからず（主君が立派でなくとも、家臣は忠誠心を持たねばならない）」という独特のイデオロギーが存在し、これが日本企業の経営体質にも受け継がれました。その類似点が戦後の高度経済成長のように長所として働く一方、破綻をもたらす短所にもなると見ていました。

- (6) まとめとして、もう1ヶ所引用しておきます。

「山本七平の日本資本主義の精神」（ビジネス社）147ページ、8行目以下、

「ある種の転機があったのは、徳川時代のはじめであり、したがって現代にも通用する人間、すなわち『いまの社会人』を生み出したのはこの時代である。

そして、この『転機』を経ていない社会は、どれだけドルが蓄積しようと、石油をもっていようと、近代化は不可能だと考えてよい。と同時に、この『転機』を経ていれば、日本のように、ドルも資源もゼロの廃墟から出発しても、近代化が可能である。」

#### 14. イスラーム諸国の近代化は可能か

まずイスラーム諸国のなかで、一番優等生と思われる、トルコ共和国の現状を見てみたい。

##### (1) トルコ共和国の改革と現状

オスマン帝国が第1次世界大戦後に崩壊した時、トルコに残ったものは、アナトリア半島とイスタンブール、そして東部の山々だけでした。後にトルコの初代大統領となるムスタファ・ケマル・アタチュルクは、互いに補完し合う2つのことを同時に目指して進みました。一つは多国籍の帝国の代わりに、国民国家を設立することでありました。もう一つは、国家を世俗化することでありました。公私の区別ということを重視し、宗教活動は私生活に属すると明確に決めました。

トルコ共和国の前身は、バルカン半島、トルコ、さらに北アフリカなどアラブ地域のほぼ全域を支配したオスマン帝国で、その行政言語はオスマン語という、アラビア語・ペルシャ語の語彙を大量に含むトルコ語でした。1923年にトルコ共和国が建国されると、初代大統領ムスタファ・ケマル・

アタチュルクは、まずそのトルコ語の表記をローマ字に変えました。新しい文字が定着すると、アタチュルクはアラビア語・ペルシャ語の語彙をトルコ語（多くは新造語）でおきかえる所謂「トルコ語改革」に着手しました。

イスラム世界の代表（カリフ）が統治するオスマン帝国から、アタチュルクはトルコを世俗的な近代国家に生まれ変わらせようとし、そのために文字を変えることで西欧的な知識層の誕生を促し、語彙を変えることで人々の発想からイスラム的な要素を排除しようとしたのです。しかし、トルコの人々は、アラビア語・ペルシャ語彙を手放さなかったし、イスラムから遠ざかることもありませんでした。

言うまでもなく、トルコ人は何世紀も前からキリスト教徒ではありません。ヨーロッパ人が、彼等をヨーロッパ人とみなすのに抵抗を持つのは、そのせいでもあります。いかに世俗化したとは言え、ヨーロッパは、宗教と言えばキリスト教です。世俗化をすることとは、裏を返せば、それ以前に強い影響力を持った宗教があったということです。トルコもヨーロッパも世俗化したのですから、両者は接近して良い筈ですが、それが逆に障壁を高くしてしまったのです。

トルコでは、最近、オスマン帝国への回帰という懸念が急速に広まっております。その代表格がトルコ共和国の第12代大統領レジェップ・タイップ・エルドアン氏（2014年8月28日就任）であります。もともと、これは、あくまで聞いた話であります。エルドアン氏は、貧民のために70万戸の住宅を建てたので、人気は衰えないとの事であります。

## (2) イスラーム社会が近代化出来ない最大の原因

故小室直樹は、イスラーム社会が近代化出来ない最大の原因として、集英社インターナショナル発行の「痛快！憲法学」の140ページで次の様に述べています。

「イスラム教徒が何か悪いことをして反省する際には、同時に『アッラーの思し召しによって』、どうぞお許しただけませんかと神様のお慈悲を願う。するとアッラーはまことに寛大な神様ですから、『これからは気を付けろよ』と許して下さい。

神との契約においてさえ情状酌量が許されるのですから、ましてや人間同士の契約、それも異教徒の欧米人や日本人との契約なんて、そんなに一所懸命守るわけがありません。

といっても、かれらにしても『契約を破ることがいいことだ』とは、もちろん思っておりません。やはり契約を破るのはよくないことだと分かっています。

(略)

イスラム教は、マホメッドがユダヤ教やキリスト教の欠点を徹底的に研究して作りあげた宗教ですから、その意味で、ひじょうによくできた教えだと言えます。世界的に見ると、イスラム教の信者が今、最も増えているのだそうですが、それも当然のことです。

しかし、そのイスラム教を信じているかぎりには「人間同士の契約も絶対である」という観念は生まれません。したがって、近代資本主義も近代民

主主義も成立しない。そこが現代イスラム世界のかかえている最大の問題と言えるでしょう。」

#### 15. イスラーム法について

「クルアーン」は、神のことば、そして「ハディース」は預言者のことばと行いの記録、そして神の意志は、聖典クルアーンと預言者の伝承ハディース以外には決してあらわれていることはないのであります。ただこれら聖典の叙述はあまりにも具体的であり、個別的な特殊状況に密接につながって、多くの場合、そのままでは一般的、普遍的適用性をもちません。そこで、あくまで聖典クルアーンと預言者の伝承はハディースに述べられていることを、整理し、解釈し、組織化して、正しい人間生活のあり方を全体的に規制する一般規範の体系の形に作り上げ、預言者の死後100年から200年の間に出来上がったものがイスラーム法（シャリーア）です。宗教としてのイスラームがこの様な法的性格をもっていることは、イスラームが律法的宗教であり、イスラームをユダヤ教に近付けています。

しかし、イスラーム法は、通常の意味の法とは、大きく異っています。それは聖典クルアーンに示されている神の意志を法規定として体系化したものですから、宗教法と言えましょう。だが、イスラーム法は宗教法であるが、聖なるもののみでなく、人間生活のあらゆる面を含んでおり、聖俗の区別なく、全てを規制するから通常宗教法とも異なっています。

内容としては、基本は、唯一神への帰依の勧めと多神教・偶像崇拜の禁止、礼拝やモスク、巡礼といった宗教儀礼に関すること、結婚・離婚、遺産相続、扶養義務、さらに食べもの、飲みもの、衣服、挨拶の仕方、老人や孤児の世話の仕方、また商売、取引、契約、支払、借金といった民法の分野から、窃盗、殺人、姦通、詐欺などの刑法や刑事訴訟法など国家の機能に関わる分野から、国家そのものに関わる憲法的規定、国家の外交や対外関係をつかさどる国際法的な規定までも含まれております。

現世に生きるかぎりでの人間生活を端から端まで規制する「命令・勧告・禁止」の体系となっており、「こうしなければならない」「こうしたほうがいい」「こうしないほうがいい」「こうしてはならない」という四つの原理に基いて、人間の内的・外的行為に関わる一切が厳密に規定されております。

ところで日本におけるイスラーム法の現状について、岩波イスラーム辞典883ページの9行目以下に、以下の記述があったので引用しておきます。

「ながらくイスラーム法を歴史的価値に限定して見てきたため、現代のイスラーム法学やイスラーム世界各地の実態レベルで機能しつづけてきたイスラーム法についての研究はきわめて弱い。日本での研究は、視座の面では欧米的な偏りから免れているものの、絶対量が不足している。イスラーム法が通用してきた地域は広大であり、時代的にも14世紀以上に及んでいることを考えれば、理論・事例の両面において研究の急速な拡大が必要とされている。日本に滞在する外国人ムスリムも近年急増しており、国際私法などに関わる実務面でも、イスラーム法の理解が必要とされているが、法学部でもイスラーム法の講義を提供している大学はごくわずかで、今後の課題となっている。」

筆者の専門の法学の分野でも真にこの通りでありますので、時局的関心の次

元を越えて、私共はイスラームという文化の精神を捉えるべく、不断の努力を必要とすると思料します。

#### 16. 井筒俊彦博士について

さんざん引用させていただいた故井筒俊彦博士は、1914年 東京都生まれ、慶應義塾卒、1954年 同大学文学部教授、1969年 カナダのマギル大学の教授、1975年 イラン王立哲学研究所教授を歴任、1979年 イラン革命のためテヘランを去り、その後研究の場を日本へ移しました。

筆者の最大の関心事は、井筒先生はイスラーム教徒であるのかどうかでありました。増補新版「井筒俊彦」(言語の根源と哲学の発生)河出書房新社234ページに以下の様に書かれていました。

「井筒先生に、『先生、イスラームとキリスト教と、もし本当に自分が信徒になるとしたらどちらですか?』と言ったら、『それはキリスト教だね』と。…カトリックが一番、自分の精神的な性に合うと。それは『なぜイスラームに改宗しないか』という文脈で聞いたわけ。先生は、カトリックが一番合うと。カトリック教徒には、自分はないけども。強いて言えば、非常にカトリック的な世界が近いとね イリュミナシオンの話などして下さった。」

以 上

(2018年1月18日脱稿)

#### ○前550年—前330年

アケメネス朝

古代ペルシャの王朝で、イランを本拠として西アジア全土を統一

#### ○226年—651年

ササン朝

中期ペルシャ王朝

#### ○330年—1453年

ビザンツ帝国

#### ○570年頃、ムハンマド、メッカで生まれる。

#### ○610年頃、ムハンマド、神の啓示をうける。

#### ○622年

ムハンマド凱旋将軍のごとくメディナに入った(遷行((ヒジュラ))とい  
い、歴史はイスラーム時代に入る)

#### ○632年頃

ムハンマド死去

#### ○632年—661年

正統カリフ時代

アブー・バクル, ウマル, ウスマーン, アリー

#### ○642年

ニハーヴァントの戦い

イラン西部ニハーヴァントで行われた会戦。ムスリム軍がサーサーン朝  
軍に勝利し、イラン征服を決定的にした。

#### ○661年—750年



- ウマイヤ朝成立
  - 首都ダマスクス
- 750年—1258年
  - アッパース朝 (Abbāsids)
    - 第2代カリフのマンスール (在位754—775) のときにバグダートに新都建設
- 756年—1031年
  - 後ウマイヤ朝
    - シリアのウマイヤ朝がアッパース朝に滅されたとき、その追討を逃れて、スペイン、コルドバに都して独立した王朝
- 1099年
  - 第1回十字軍
    - イエルサレム王国樹立
- 1299年—1922年
  - オスマン帝国 (トルコ帝国)
- 1492年
  - グラナダが陥落し、ナスル朝滅亡
- 1501年—1736年
  - サファウィー朝
    - イランの王朝で、シーア派第7代イマームの子孫が全イランを統一。
    - 都はダブリーズ
- 1967年6月
  - 第3次中東戦争。エジプト・シリア・ヨルダン軍が6日間でイスラエル軍に撃破。パレスチナの土地全域がイスラエルの支配下に入った。(6月戦争とも6日間戦争とも呼ばれる)
- 1970年
  - ナセル大統領死亡
- 1973年
  - 第4次中東戦争、石油危機
- 1979年
  - イラン革命
    - エジプト=イスラエル平和条約
    - マッカの禁裏モスク占拠事件
    - ソ連、アフガニスタン侵攻 (12月24日)
- 1980年
  - イラン=イラク戦争
- 1990年8月2日
  - イラク軍が隣国クウェートに侵攻、瞬く間に占領してしまった
- 2001年9月11日
  - 対米同時多発テロ起こる

- 2003年  
米、英 イラク攻撃
  - 2006年12月30日  
イラクのサッダーム・フセイン大統領の死刑が、バグダートで執行された。
  - 2011年  
ビン・ラーディン殺害
  - 2014年  
IS (イスラム国) 離反独立
  - 2017年10月17日  
内戦下のシリアで、少数民族クルド人の軍事組織を主力とする連合部隊「シリア民主軍」(SDF)は10月17日、過激派組織「イスラム国」(IS)が「首都」と称してきた北部ラッカを制圧、解放したと発表した。
- 以 上

今後のスケジュール

【癒しの音楽コンサート】

2018年5月12日土曜日 14時開演

会場：新宿 角筈区民ホール

出演：水野佐知香(Vn)、三宅美子(Hp)、吉原佐知子(箏)

入場料：前売り 3,000 円、学生 2,000 円

(当日券 3,500 円)

【純正律音楽コンサート】

2018年9月15日土曜日 14時開演

会場：山崎製パン「飯島藤十郎社主記念 LLC ホール」

出演：水野佐知香(Vn)、三宅美子(Hp)、吉原佐知子(箏)



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話 : 03-5317-0291 FAX : 03-5317-0289

e-mail : puremusic0804@yahoo.co.jp

<http://just-int.com/>

平成 30 年 2 月 23 日 発行責任者 : NPO 法人 純正律音楽研究会

編集 : 相坂政夫